

考察を踏まえた今後の対応（訓練・手引書・情報発信）

令和6年2月20日

北陸地域国際物流戦略チーム事務局

1. 来年度の訓練の実施方針

①訓練の実施内容

- 訓練の有用性を高めるため、今年度の成果を踏まえ、実施内容を工夫する。
 - 内航WSは、「演習訓練」形式で実施する。（⇒詳細はP.3～）
 - 外貿訓練は、陸上輸送のボトルネックとなる点を含んだ演習訓練とする。
- 代替輸送の判断の事例や代替輸送に係る物流サービスについて訓練の際にも紹介する。

②訓練参加者の募集

- 事業継続計画の策定をより広めるため、訓練の参加者を増やすよう、募集方法を工夫する。具体的には以下の方法を検討する。
 - 「参加」を原則としての募集
 - 業界新聞等メディアを通じて募集
 - 過去にヒアリングに行ったことのある事業者への声かけ
 - バックアップに共催・後援している団体などへ広く訓練参加への積極的な呼びかけ
 - 運輸局及び運輸局に関係する団体やトラック協会に参加要請
 - 第1回専門部会で概要や訓練の効果をより具体的に発表

③訓練を円滑に進めるための対応

- 訓練参加者の模擬会社BCP等を理解しやすいように訓練方法を工夫する。
（事前説明会での解説、読み合わせ、サポーターや運営側からの補助など）
- 訓練参加者が各班の前提の把握できるようにサポートする。
（サポーターのリード、演習に入る前の確認、事前の各役割の整理・説明など）
- 当日キャンセルに対応できるように準備を行う。
（当日キャンセルが出た場合の対応の事前準備、予備的なメンバーの確保など）
- 使用するツールについては事前に使用ルール等を事前説明会等で説明する。

2. 手引書の改訂の方針

- 代替輸送や有事に備えた北陸港湾利用の必要性について手引書等で解説をする。
- 実際の代替輸送事例を参考にした、代替輸送の判断の流れの事例紹介や、代替輸送に係る物流サービスの紹介を手引書に記載する。

⇒ (詳細はP.7～)

3. 来年度の対外的な情報発信の方針

- 代替輸送の重要性を広めるため、訓練の結果や改訂した手引書の広報を工夫する。
- 訓練参加者へのフィードバックとして、訓練の結果や改訂した手引書等を送付する。

⇒ (詳細はP.13～)

1. 来年度の内航訓練の実施内容（案）

1-1 第1回専門部会で提示したスケジュールを踏まえた対応方針

- 令和5年度は、太平洋側港湾等の利用制限による代替輸送の必要性や災害時の代替輸送への切り替えが容易ではないことを理解してもらうため、ワークショップを行った。
- 令和6年度では、より実践的な訓練とするため、初動対応から事業継続対応までの切り替え等の一連の流れの体験を予定する。

令和4年度

- ・内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送訓練に向けたシナリオ設定

令和5年度

- ・内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送の必要性や災害時の代替輸送への切り替えが容易でないことを理解してもらうためのワークショップ
 - ワークショップ1:「各社の国内輸送に関するBCPの現状認識」
 - ワークショップ2:「南海トラフ地震発生、どんなことが起こる？」
 - ワークショップ3:「代替輸送の検討と課題等の意見交換」
 - ワークショップ4:「2024年問題を考慮した災害時の国内輸送とは」

令和6年度

- ・初動対応から事業継続対応までの切り替え等の一連の流れの体験（令和5年度の意見を反映した手引書を踏まえたデモンストレーション等）

令和7年度～

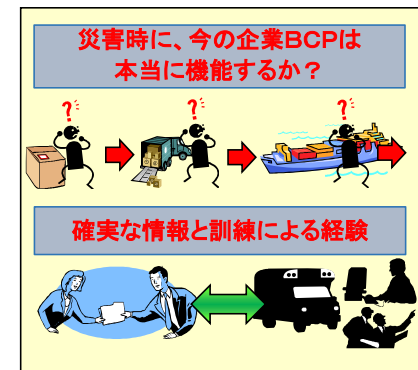
- ・ロールプレイングによる訓練の本格実施

1-2 令和6年度の内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送訓練のイメージ

- 今年度の内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送ワークショップでの成果や能登半島地震の状況を踏まえ、荷主企業や関係者と広域バックアップ専門部会が協同して代替輸送訓練を実施する。
- これまでの外貿コンテナの代替輸送に比べ、物流ルートを切り替えるための確認作業や手続き等は多くないものの、ほとんどの企業がBCPに代替輸送手順や連絡リストを記載していない。
そのため、代替輸送手引書の内容にある物流に関する内容を盛り込んだBCPを作成し、平時から2港使いを活用するとどのようなメリットがあるのか体感して「訓練」により代替輸送の実効性を高めることを目的とする。
あわせて、訓練を通じ、訓練参加者へ代替輸送手順や代替ルートの設定などの、物流に関する内容が盛り込まれたBCPの充実を周知することも目指す。

代替輸送訓練の狙い

- 荷主企業等** ・ 代替港湾を介した**確実な納品。**
・ 代替港湾を介した商品・資材の**調達能力強化。**
・ BCPを改善する際に「代替輸送」をより実効性のあるものにする。
- 広域バックアップ専門部会** ・ 大規模災害時に**一斉に集まる内貿貨物への確実な対応**（課題の把握）。
・ 代替輸送に**関心のある荷主企業との日頃からの情報交換。**



代替輸送訓練の主な流れ

想定外の状況付与

自身の経験や現状の企業BCP等だけでは解決できない想定外の状況を付与し、参加者がその場で解決策を練る(気づき・啓発)

災害時の判断・実行

想定シナリオに沿って次にとるべきアクションを判断・実行することで、行動・企業BCP等に対する課題を抽出、改善の必要性を参加者に認識してもらう

反省・改善点の気づき

代替輸送訓練後、各グループ毎にスムーズな代替輸送への切り替えに足りないものを訓練を通じた気づきをディスカッション・発表する。

1-2 令和6年度の内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送訓練のイメージ

- 災害時の想定(混乱状況、通信状況、交通状況等)をできる限り再現し、付与された条件・指示書に対して、参加者がグループ内で話し合い状況に応じた判断・実行を行い、代替輸送に至るまでを目標として実施する。
- 今年度の内航WSでは、台風や大雪の際の代替輸送について十分な議論の時間がなかった、という意見があった。一連の代替輸送手順を地震で対応した後に、台風や大雪の場合は、どのような点に違いがあるか議論してもらうパートを設ける。
- 今年度内航WSで懸念事項と挙げられた2024問題の課題について、シナリオに盛り込み、解決策としての共同配送の要素を訓練内で検討する。

場面1のイメージ： 初動～ 〈災害対策本部設置〉

ファシリテーターより状況付与→プレイヤー手順確認

災害発生

- ・8月23日(金) PM(就業時間)
- ・大規模地震、豪雨等

気象予報

- ・8月23日(金)～上陸予定
 - ・豪雨・台風等
- ※台風等の場合

初動対応

- ・災害対策本部設置
- ・情報収集(社内・社外)

緊急対応

- ・安否確認
- ・負傷者対応
- ・被害拡大防止
- ・帰宅困難者対応

被害状況

- ・停電、断水、ガス、通信輻輳、ネットワーク寸断
- ・多数の負傷者や行方不明者発生
- ・交通規制、鉄道不通、空港閉鎖
- ・平時の輸送ルートでの被災

場面2のイメージ： 代替輸送決定判断・手続き

ファシリテーターより状況付与
→プレイヤー手順確認

状況把握

復旧対応、復旧待ち、代替対応手順

連絡する相手、内容

代替対応時の課題抽出

2. 手引書の改訂(案)

2-1 手引書の改訂方針

- 第1回専門部会において、代替輸送訓練のアンケートの結果を踏まえ、手引書の改訂を、企業BCPに代替輸送ルートや代替輸送手順等を記載してもらうためには？の視点で検討することを提示した。
- 訓練の結果を受け、有事に備えた北陸の港湾の利用がまだ十分に理解されていない可能性があることから、代替輸送や有事に備えた北陸港湾利用の必要性を講じる。
- 訓練の中で代替業者やルート等の意思決定がわかりにくい点・難しい点として挙げられており、手引書を訓練参加にフィードバックすることを前提に、模擬会社BCPなどを利用し、手引書の企業BCPへの反映のイメージを示す。また、代替輸送に係る事例や物流サービスの紹介を手引書にも記載する。
- 内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送の手引書については、今年度はワークショップのみ実施のため、内容の精査は来年度以降に行う。

■訓練を踏まえた手引書改訂の流れ（第1回専門部会で提示した今年度スケジュールの部分）

外貨コンテナ代替輸送訓練の流れ

(3)外貨コンテナ代替輸送訓練(令和5年11月1日)

- ◇太平洋側港湾の被災を想定し、北陸地域の港湾を代替利用する訓練を実施
- ◇首都直下地震を想定
- ◇オンラインシステムによる実施

(5)代替輸送手引書の改訂検討

- 訓練時のアンケート結果等を踏まえて検討する
- ◇企業BCPに代替輸送ルートや代替輸送手順等を記載してもらうためには？の視点で検討

内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送訓練

(4)内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送ワークショップ(令和5年10月31日)

- ◇訓練の意識付けのためのワークショップ
- ◇南海トラフ地震を想定した訓練のデモンストレーション
- ◇オンラインシステムによる実施

(6)内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送手引書

- 今年度はワークショップのみ実施のため、内容の精査は来年度以降に行う

2-2 手引書の改訂（案）

現行：第9版（ドラフト版）の構成

< 序章 >

- 本手引書の活用について
- 本手引書の使い方
- 1. 輸出編
 - 1.1 通常の輸出業務の流れ
 - 1.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 1.3 輸出代替対応手順
 - (1) 輸出荷主の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (2) 陸運業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (3) 港運業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (4) 倉庫業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (5) 船社の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (6) 港湾管理者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
- 2. 輸入編
 - 2.1 通常の輸入業務の流れ
 - 2.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 2.3 輸入代替対応手順
 - (1) 輸入荷主の代替対応手順チェックリスト【輸入編】
- 3. 内航フェリー編
 - 3.1 通常の輸送業務の流れ
 - 3.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 3.3 内航フェリー代替対応手順
 - (1) 発荷主の代替対応手順チェックリスト【内航フェリー編】
- 4. 内航RORO船編
 - 4.1 通常の輸送業務の流れ
 - 4.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 4.3 内航RORO船代替対応手順
 - (1) 発荷主の代替対応手順チェックリスト【内航RORO船編】
- 5. 用語集

第10版（ドラフト版）（案）

< 序章 >

- **代替輸送の在り方について**
- 本手引書の活用について
- 本手引書の使い方
- 1. 輸出編
 - 1.1 通常の輸出業務の流れ
 - 1.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 1.3 輸出代替対応手順
 - (1) 輸出荷主の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (2) 陸運業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (3) 港運業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (4) 倉庫業者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (5) 船社の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
 - (6) 港湾管理者の代替対応手順チェックリスト【輸出編】
- 2. 輸入編
 - 2.1 通常の輸入業務の流れ
 - 2.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 2.3 輸入代替対応手順
 - (1) 輸入荷主の代替対応手順チェックリスト【輸入編】
- 3. 内航フェリー編
 - 3.1 通常の輸送業務の流れ
 - 3.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 3.3 内航フェリー代替対応手順
 - (1) 発荷主の代替対応手順チェックリスト【内航フェリー編】
- 4. 内航RORO船編
 - 4.1 通常の輸送業務の流れ
 - 4.2 災害時における代替輸送の流れ
 - 4.3 内航RORO船代替対応手順
 - (1) 発荷主の代替対応手順チェックリスト【内航RORO船編】
- 5. 参考資料
 - 5.1 代替輸送の事例紹介**
 - 5.2 代替輸送に係る物流サービスの紹介**
 - 5.3 用語集

2-3 「■代替輸送の在り方について」の概要

○「■代替輸送の在り方について」として、「太平洋側大規模災害時における北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画」等で整理されている代替輸送の必要性等を手引書に記載する。

< 序 章 >

■代替輸送の在り方について

○代替輸送の必要性

東日本大震災では、取引先の業務停止等により直接的な被害を受けていない多くの太平洋側の企業が、事業中断や倒産に追い込まれた。一方で通常、太平洋側の港湾を利用していた貨物を、日本海側の港湾を利用して代替輸送することにより、事業を継続し被害を最小限にとどめたという事例もある。

東日本大震災時には日本海側の港湾が太平洋側のバックアップ機能を果たした実績を基に、今後発生が懸念されている首都直下地震、南海トラフ地震等が発生し、太平洋側の港湾物流機能が停止した場合に、早期復旧だけでなく、代替輸送手段の確保として、同時被災が発生しにくく、代替地となり得る北陸地域の港湾を利用した物流支援体制の構築に向けた取組が非常に重要になる。

今後、首都直下地震や南海トラフ地震が発生し、三大湾の港湾物流機能が停止した場合、その影響は、東日本大震災の比ではなく、全国の港湾が代替港湾として機能し、代替輸送ルートを確認することが必要となる。

○円滑な代替輸送に向けた備え

大規模災害時に代替輸送ルートを確認するには、貨物を受け入れることができかつアクセスできる港湾の確認、通常時と異なる陸運や港湾荷役、倉庫等の手配、通関や検疫等の貿易手続き等、様々な手続きが必要であり、円滑に代替輸送ルートを確認するためには、通常時からの準備が不可欠である。



北陸地域港湾による代替輸送のイメージ

2-4 「5.1 代替輸送の事例紹介」の概要

○「5.1 代替輸送の事例紹介」として、
実際に代替輸送を行った事例として以下の取組み紹介を記載する。

- ・東日本大震災時の事例
- ・訓練での模擬会社を活用した判断の流れやBCPへの手引書の反映方法

■東日本大震災時の事例

5. 参考資料

1 輸出編

2 輸入編

3, 内紙フリール編

4 内紙P/O船編

5 参考資料

5. 参考資料

5.1 代替輸送の事例紹介

(1) 災害時の代替輸送事例

① 東日本大震災時の外資コンテナ貨物輸送（外資）

・東日本大震災で仙台塩釜港の北米ダイレクト航路が寸断されたことにより、荷主は、新潟港、京浜港、大阪南港を代替港として対応した。

災害	災害名称	インフラの被害	物流網への影響
地震・津波	東日本大震災	港湾の被災	海上物流の停止【13週間程度】
地域	輸移出入	平常時の主な輸送方法	災害時の主な代替輸送方法
東北地方	輸移出	海上輸送	トラック輸送（代替経路）+ 海上輸送（代替港）
企業BCP	品目・荷姿等	平常時の主な利用港湾	災害時の主な代替港湾
一	コンテナ	仙台塩釜港	京浜港、新潟港、大阪南港

震災前 震災後

東洋ゴム工業(株)の例
 ○京浜港や新潟港までトラック輸送して製品を輸出（応急措置）
 ○京浜港までの輸送をトラックで行う場合、船荷で行う場合に比べ、コンテナ1本あたり、8～8.5万円の損失が発生、(5/16日CARGO)
 (参考) 平成22年東洋ゴム工業(株)コンテナ輸送実績:34,895TEU

文獻名（公表者）
 震災による産業・日常生活に及ぼした影響（宮城県）

資料：北陸地域国際物流戦略チーム事務局「内航RORO船・フェリーを活用した災害時代替輸送訓練」（北陸地域国際物流戦略チーム 令和4年度 第1回広域バックアップ専門部会 資料3、令和4年10月12日）

■模擬会社BCPを活用した手引書への反映方法の解説例

5. 参考資料

1 輸出編

2 輸入編

3, 内紙フリール編

4 内紙P/O船編

5 参考資料

③ 手引書の反映例

i. 役割分担ごとのタイムラインの整理

本手引書で取りまとめたチェックリストは、代替輸送に係る全体の流れを整理したものである。先述したように個々の企業・組織における緊急時の体制を定め、各役割において対応項目を整理する必要がある。

事象発生後においては、時間の経過とともに必要とされる内容が当然変化していくため、本手引書を参考に、対応手順について、時系列で管理ができるように、役割分担ごとのタイムラインのフローを作成しておくことよい。

■タイムラインのフローの例

事業継続チーム(実行機能)

対応項目	担当	時間	1H	3H	6H	12H	24H	48H	72H	1W	2W	1M	3M	6M
<input type="checkbox"/> 1.要員参集	各務													
<input type="checkbox"/> 2.状況確認	関係各務													
<input type="checkbox"/> (1)受注状況の確認	受注担当													
<input type="checkbox"/> (2)在庫状況の確認	出荷担当													
<input type="checkbox"/> (3)出荷可否の確認	出荷担当													
<input type="checkbox"/> (4)生産可能性の確認	生産担当													
<input type="checkbox"/> (5)復旧見込み期間の確認、検討	生産担当													
<input type="checkbox"/> (6)手元資金の確認	経理担当													
<input type="checkbox"/> (7)他拠点での代替対応可否の確認	代理事業継続チーム													
<input type="checkbox"/> (8)原材料等の調達先の確認	調達担当													
<input type="checkbox"/> (9)物流の状況確認	出荷担当													
<input type="checkbox"/> (10)競合先の被災状況確認	営業担当													
<input type="checkbox"/> 3.状況を踏まえた売上予想	営業担当													
<input type="checkbox"/> 4.対応方針の検討	事業継続戦略戦略推進部 関係者													
<input type="checkbox"/> 5.事業継続戦略発動	事業継続戦略戦略推進部 関係者													
<input type="checkbox"/> 6.事業継続戦略に基づく事業継続	各事業継続チーム													
<input type="checkbox"/> (1)第一優先順位	各事業継続チーム													
<input type="checkbox"/> (2)第二優先順位	各事業継続チーム													
<input type="checkbox"/> (3)第三優先順位	各事業継続チーム													
<input type="checkbox"/> 7.撤収⇒復旧先へ移動	各事業継続チーム													

2-5 「5.2 代替輸送に係る物流サービスの紹介」の概要

○「5.2 代替輸送に係る物流サービスの紹介」として、代替輸送で利用可能性のある北陸港湾のポートセールス資料やSea&Railなどの物流サービスへのリンク先を掲載する。

■物流サービスへのリンク先の掲載

5. 参考資料

5.2 代替輸送に係る物流サービスの紹介

(1) 北陸地域の港湾基本情報（外貿および内航）

北陸地域の港湾基本情報（港湾管理者情報、航路情報、港湾平面図、コンテナターミナル所在地）については、以下のリンクを参照のこと。

- 新潟県（新潟港、直江津港）：<https://www.ra.hrr.mlit.go.jp/saigaiportal/niigata/>
- 富山県（伏木富山港）：<https://www.ra.hrr.mlit.go.jp/saigaiportal/toyama/>
- 石川県（金沢港）：<https://www.ra.hrr.mlit.go.jp/saigaiportal/ishikawa/>
- 福井県（敦賀港）：<https://www.ra.hrr.mlit.go.jp/saigaiportal/fukui/>

(2) 代替輸送に係る物流サービス

① 北陸港湾 物流関係者連絡先（外貿）

北陸港湾の物流関係者の連絡先リストは以下のリンクより入手すること。

<https://www.ra.hrr.mlit.go.jp/saigaiportal/file/files/list.xls>

② Sea&Rail 日本海ルート（内航）

- 『Sea&Rail』は輸送の一部に海上輸送を採り、陸路と海上の両方を活用することで一貫した輸送を行う日本通運のサービス。
- 輸送ルートを複数化し、災害発生時の輸送障害区間を回避可能とすることでBCP（事業継続）にも有効。
- 自然災害時に鉄道や陸路が機能しなくなった際の代替モードとしても、活用可能。

詳細は以下のリンクを参照のこと。

<https://www.nittsu.co.jp/v-site/70.html>

北陸 広域バックアップ体制 Web

このサイトについて | プライバシーポリシー | お問い合わせ



Port of 新潟港・直江津港

NIIGATA & NAOETSU

港湾管理者情報

- 新潟県内港のご紹介
- 新潟県のページ

新潟港と直江津港の港湾施設の詳細は新潟県のページで確認できます。

各港湾情報



航路情報

新潟港（令和3年9月1日現在）

航路名	船社名	運行回数	寄港曜日	寄港地
韓国航路	長錦商船	週1便	火	新潟-舞鶴-境港-浜田-釜山-釜山新港-金沢-(新潟)
		週1便	木	新潟-金沢-釜山-釜山-釜山新港-敦賀-伏木富山-(新潟)
	Xプレス・フイーターズ	週1便	日	新潟-伏木富山-秋田-金沢-釜山新港-(新潟)
韓国・中国航路	南星海運 高麗海運	週1便	水	新潟-苫小牧-石狩-境港-釜山-蔚山-光陽-天津新港-青島-光陽-釜山-志布志-小名浜-仙台-常陸那珂-清水-釜山-光陽-連雲港-青島-釜山-金沢-(新潟)
		週1便	月	新潟-釜山-蔚山-光陽-上海-寧波-上海-釜山-常陸那珂-仙台-苫小牧-釧路-石狩-酒田-(新潟)
	高麗海運 天敬海運	週1便	土	新潟-伏木富山-直江津-蔚山-釜山-釜山新港-天津新港-大連-浦項-釜山-(新潟)

港湾基本情報

(航路情報、港湾平面図、CT所在地)

新潟県 | 新潟港・直江津港

富山県 | 伏木富山港

石川県 | 金沢港

福井県 | 敦賀港

道路交通情報

JARTIC（日本道路交通情報センター）

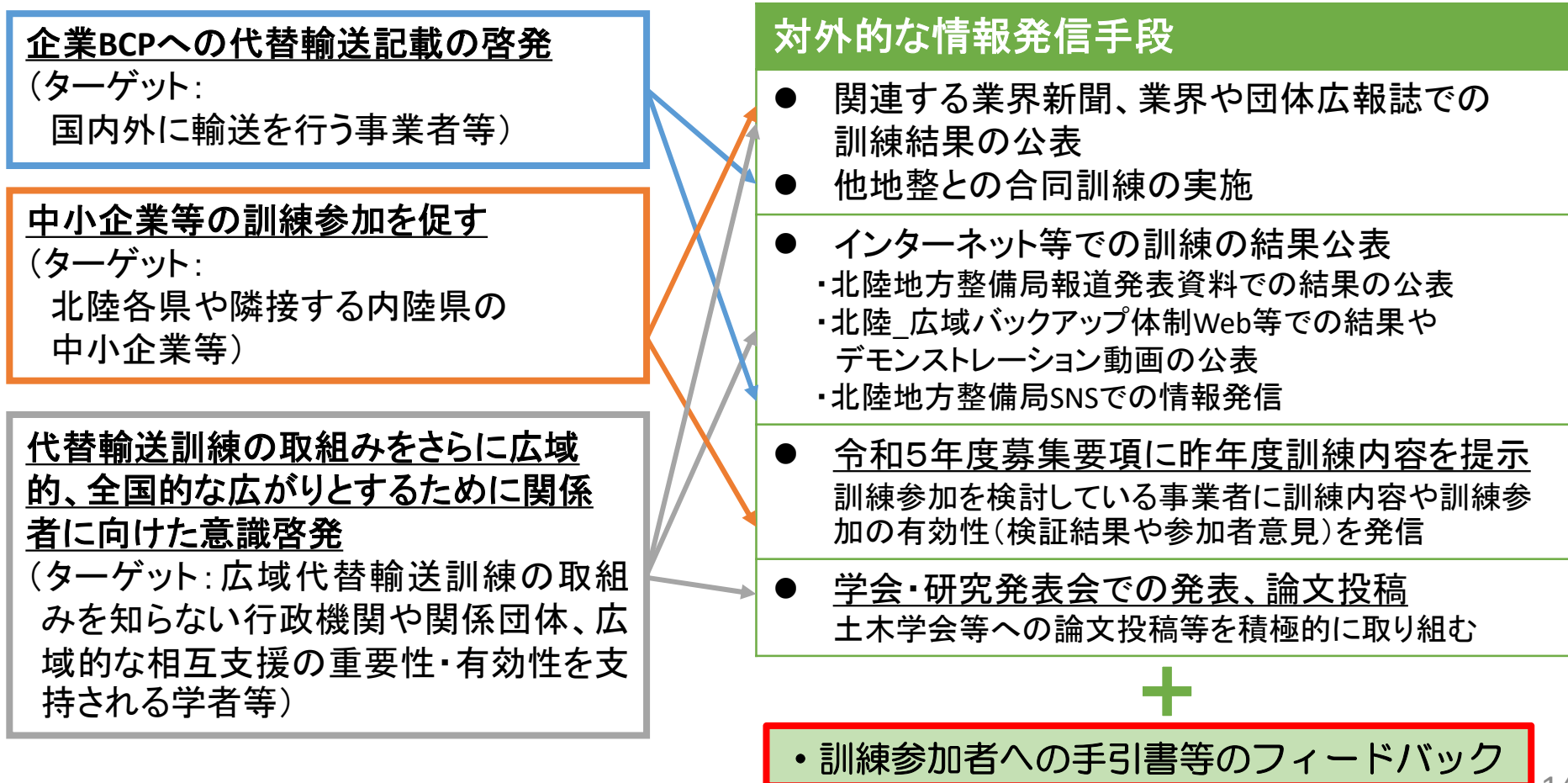
NEXCO 東日本

3. 対外的な情報発信について

3-1 対外的な情報発信の方針

- 第1回専門部会において提示した「対外的な情報発信手段」について、今年度の取組みを振り返り、ブラッシュアップを行う。
- 加えて、訓練参加者のフォローアップとして、手引書等のフィードバックを行う。

■想定される対外的な情報発信方法(第1回専門部会資料より)



3-2 今年度の実施状況と今後の対応

対外的な情報発信手段	実施状況	今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ● 関連する業界新聞、業界や団体広報誌での訓練結果の公表 	危機管理教育&演習センター会誌に募集要項を掲載 各地商工会メルマガでの募集	業界新聞等でのメディアを通じて訓練参加者の募集を行うことを検討 その際に今年度訓練結果の概要を合わせて公表
<ul style="list-style-type: none"> ● 他地整との合同訓練の実施 	北海道開発局に代替輸送訓練を視聴いただいた	来年度訓練への参加を他地整に依頼
<ul style="list-style-type: none"> ● インターネット等での訓練の結果公表 	「北陸広域バックアップ体制Web」での手引書等の公開状況から課題を整理 訓練のデモ動画や結果の公表を含め、改善案を検討中 (⇒P.17で詳述)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度検討した改善案を踏まえ、「北陸広域バックアップ体制Web」のリニューアルを計画・実施 ・令和5年度訓練参加者には、改訂した手引書等のフィードバックを行う
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>令和5年度募集要項に昨年度訓練内容を提示</u> 	令和5年度の訓練参加者募集時には、昨年度の訓練内容をWebに掲載	昨年度の訓練内容の掲載場所がわかりずらかったため、参加募集のプレスリリースの資料に、今年度の訓練結果の概要を掲載することを検討
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>学会・研究発表会での発表、論文投稿</u> 	今年度の訓練結果を取りまとめ、論文投稿を検討	今年度の訓練結果や訓練の取組みについて以下のような学会・研究発表会等で発表することを引き続き検討 <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌「ぎょうせい」等行政雑誌への掲載 ・沿岸域学会(「防災・復興」セッション) ・土木学会 全国大会 第IV部門 (土木計画、地域都市計画、国土計画、交通計画、交通工学、景観・デザイン、土木史、測量などのセッション) ・土木計画学研究発表会 ・地域安全学会 ・土木学会論文集D3(土木計画学)など

3-3 インターネット等での訓練の結果や手引書の公表・募集要項への提示

- 現在、手引書等が入手できる場所は「北陸広域バックアップ体制Web」である。ホームページの下段に「代替輸送手引書」へのリンクが設置されているため、スクロールしないとリンクを見ることができない。また、手引書についての説明がないため、手引書の概要を知っている方でないとダウンロードできない。⇒手引書等がダウンロードできるページがあることをホームページ1画面目でわかるようにする。手引書等のダウンロードできる資料がどういったものか説明を追加する。
- 昨年度、訓練の結果は訓練募集サイトで公表したものの手引書と同様、情報の在処がわかりにくい。「北陸広域バックアップ体制Web」のホームページ1画面目でわかるようにする。代替輸送訓練の結果やデモ動画などを掲載し、より訓練をわかりやすくする。

■現状の北陸広域バックアップ体制Webでの手引書の提示

1画面目

2画面目

代替輸送手引書

- 代替輸送手引書
- 代替輸送モデルルート

こちらをクリックしてください。
(必要に応じてファイルを保存してご利用ください。)

■改善案のイメージ

北陸 広域バックアップ体制 Web

空を渡り、海を渡り、
みなどから広がる交流と連携

代替輸送に係る資料

- 基本行動計画
- 代替輸送モデルルート
- 代替輸送手引書
- 物流関係者連絡先リスト

※新たに代替輸送に係る資料へのリンクをホームページ1画面目に追加